



国際会長 (IP) Moon Sang Bong (韓国)

“Yes, we can change” 「私たちは変えられる」

“Courage to challenges” 「挑戦への勇氣」

会長 古田 和彦
副会長 古賀 健一郎
書記 金子 功
会計 伊藤 誠彦
直前会長 金子 功

アジア地域会長 (AP) 田中 博之 (東日本区)

“Action” 「アクション」

“With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」

東日本区理事 (RD) 宮内 友弥 (東京武蔵野多摩)

「為せば、成る」

“No challenge, No fruit”

湘南・沖縄部部長 (DG) 佐藤 節子 (厚木)

「心を元気に きずなを深めあえるワイズをめざそう！」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「YMCA、ワイズメンと共に！」

“With YMCA, With Y's Men”

監事 松島 美一
ブリテン 古賀 健一郎
担当主事 青木 一弘

<今月の聖句>

金子 功

「はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」

(ヨハネによる福音書 12 章 24 節)

今月のひとこと

「議論下手？」

伊藤 誠彦



「横浜クラブが直面している重要な課題を明確にし、横浜クラブのあるべき姿を共有する」ことを目的に去る5月の一泊研修会以来、数回にわたって議論を重ねてきた。結果は？一言でいうと不満足としか言いようが無い。その原因は自分自身を含めて、議論下手

だったからと考える。

明確な根拠を示さないまま意見を言う者、最初から結論ありきで自分の意見を主張する者、声の大きな者の意見を斟酌して自分の意見を述べない者、論旨を明確にしないまま長々と話す者・・・

過日、ハーバード大学のマイケル・サンデル教授の「白熱

教室」というTV番組を見た。サンデル教授の司会の下、世界各地から集まった若者が、「移民を拒む権利はあるか？」という議題を討議する。最初にサンデル教授が「豊かな国には戦争や迫害から逃れてきた難民を受け入れる道義的責任はあると思うか？」と問いかける。次に、「では、貧困や経済的理由から移住してきた移民はどうか？」と聞く。

サンデル教授は、決して皆の意見を誘導する訳ではない、議論の参加者が自ら考えを整理し、論理的思考を展開するのを助長するように仕向ける。簡単には答えが出ない難問に対して議論が交わされ、必ずしも正解があるわけではない。それでも、意見は集約され参加者の相互理解が深まる。

思えばワイズの会合では、これまで、あまり深刻な議論をしたことが無い。むしろ避けてきたとも言える。夫々のキャリアを経て、夫々の思惑を抱えて、老年期にさしかかってからワイズに参加した多くの会員は、夫々異なった思考パターン、価値観を持っている。深刻な議論の末、意見の相違を理由に、クラブを去った者もいたことも事実だ。

うまく議論が進まないからと言って、放置しておいて良い訳はない。いろいろな機会をとらえて議論を重ね、皆が少しずつでも議論上手になるよう努力するしかない。

<2018年9月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
13名	メン 6名	69%	今月分	
	メネット 1名	(メーキャップ	切手	0g
	コメント 0名	3名含む)	現金	0円
	ビジター 0名		年度累計	
	ゲスト 1名	前月修正	切手	0g
	合計 8名	出席率 %	現金	0円

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

<10月の行事予定>

強調月間「EMC/E, YES」

日	曜	時間	行事内容	場所
8-9	月 火		熊本スピリット クラブ訪問	熊本YMCA
11	木	18:30	第一例会	中央YMCA
13	土	10:00	幼児室内サッカー 大会	中央YMCA
20	土	9:45	チャリティーラン	みなとみらい 21 地区
25	木	17:00	第二例会	中央YMCA

「9月第一例会報告」

伊藤 誠彦

日時 : 9月13日 18:30~20:30

場所 : 横浜中央YMCA501号室

出席者 : 青木、伊藤、林、今村、大高、金子、古田

ゲスト : 平岡 守 横浜Y日本語学科 (卓話者)

古田ワイズの司会で定刻に開始。古田会長による開会点鐘、挨拶に続き、ワイズソング、ワイズの信条を唱和。古賀ワイズが横浜YMCA光州短期研修団を団長として率いて訪韓中のため、古賀ワイズが託した今月の聖句のメッセージを古田会長が代読。

食前感謝、食事の後は卓話。今年度、古田会長の活動基本方針は「YMCA活動についての知識と理解を深め、その活動を支援する」であるため、YMCAスタッフによる卓話が数多く計画されている。9月例会はその第一弾として、「横浜YMCA日本語事業」と題して、日本語学科の平岡さんをお願いした。



卓話者の平岡氏

平岡さんは2006年日本語教員専門職として横浜YMCAに採用され、6年前からは日本語学科の責任者として活躍されている。

日本語学校は全国に約600校あり、12のYMCAが17校を開設している。17校のうち、横浜YMCAとしては、横浜、厚木、川崎の拠点に3

校。最古参の横浜校は1988年の創立で、今年30周年を迎えた。

全国の日本語学校の中には就労目的の留学ビザを取得し、あたかも人材派遣業的性格を持った問題校もあるとか。

YMCAの場合は専門学校の中に日本語学科が位置付けられているのが特色であり、且つ、他の日本語学校に対する強みにもなっている。例えば、横浜の場合、横浜YMCA学院専門学校の中に、厚木の場合、YMCA健康福祉専門学校の中に、日本語学科が開設されている。学生は日本語を学びながら、日本での進学・就職を実現するのに必要な能力を身につけることができる。

横浜校の場合、学生の母国は国際情勢も反映し、東アジア(中・台・韓)が減少気味で、東南アジア(ベトナム、ネパ

ール等)の比率が増加してきている。卒業生の進路は2017年実績で、大学院・大学18%、専門学校35%、就職10%、その他37%だそうだ。

平岡さんの話を聞くことにより、日本語学科の現状についておぼろげながら全体像が理解できた。これを機に、更に理解を深め、今後の支援活動に活用していきたい。

卓話の後はビジネス、今後の予定、主要な出来事について確認した。因みに、次回の卓話は横浜YMCA理解の第二弾、鴨下さんによる「BAPY基金について」。

「第22回 湘南・沖縄部大会報告」

古田 和彦

9月15日(土)午前2時から午後6時過ぎまで、湘南・沖縄部の部大会がレンブラントホテル厚木で80名ほどの参加を得て開催されました。第22回ですが、今年度から従来の「部会」という名称から「部大会」という名称に代わりましたので、部大会としては初めてとなります。

第1部は式典。式典全体の司会は部書記の堀田ワイズです。先ず、開会礼拝。鎌倉クラブ担当主事の三上ワイズが司会を務め、讃美歌「主われを愛す」を全員で歌い、聖書、「隣人を自分のように愛しなさい」と朗読し、祈禱をささげました。続いて、西日本豪雨災害支援募金の献金をささげ、厚木クラブ小林ワイズが感謝の祈禱をささげて開会礼拝を終了しました。後ほどの発表ですが、献金は48,081円で横浜YMCAを通して西日本にささげられます。式典に続いて部会。司会は堀田ワイズ。佐藤節子湘南・沖縄部長による開会点鐘、一同でワイズソングを歌い、ワイズの信条を交読しました。佐藤部長から出席者の紹介、部長挨拶があり、そののち、横浜YMCA田口努総主事、東日本区次期理事山田敏明ワイズ(北海道・十勝)、アジア・太平洋地域会長田中博之ワイズ(東京多摩摩南)からお祝いの挨拶を受けました。最後に、エクステンション委員会報告を辻委員長(横浜つづき)から、「入りたくなるワイズ、支えたくなるYMCA」をモットーに新クラブ設立に尽力する旨報告されました。

第2部は記念講演。講師は理学博士で北海道・美宙(みそら)天文台長の佐治治夫氏でした。「宇宙に学ぶ人生の歩き方」—宇宙研究最前線から人間存在の意味を考える—と題して、宇宙の映像を使いながら話されました。宇宙の成り立ちと人間の成り立ちには多くの共通点があり、宇宙の研究は、即ち、人間の研究になるとのことです。また、宇宙の138億年の成り立ち、歴史を考えると、人間同士は一瞬の生を互いに平和に暮らすことの大切さを教えられ、興味深く拝聴しました。

第3部は懇親会。これも堀田ワイズ司会のもと進められました。食前感謝川口ワイズ(厚木)、乾杯部監事の鈴木ワイズ(横浜つづき)ののち、食事をいただきながら歓談交流し、親睦を深めました。第22回東日本区大会(2019年6月1-2日、東京)、アジア太平洋地区大会(2019年7月19-21日、仙台)のアピール、各クラブ報告などののち、一同でYMCAの歌を高らかに歌い、湘南・沖縄部次期部長森田幸二郎ワイズ(沖縄)の挨拶、閉会点鐘で午後6時20分閉会しました。

出席者:伊藤メン・メネ、大高、金子、齋藤、田口、古田。

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

「第6回 日本語スピーチコンテスト報告」

古賀 健一郎

今回から神奈川県民ホールに会場を移して、9月5日(水)10時より、第6回日本語スピーチコンテストが開催された。

日本語学科の安富由起子さんの司会のもと、先ず挨拶に立った当クラブの古田会長が「日本語スピーチコンテストは回を重ねるごとに、多くの企業・団体の協賛を得ながら発展し、横浜、川崎、厚木の3つの日本語学科の関係者が協力しての開催の運びとなった。さらに、今回から私共の横浜ワイズメンズクラブに加えて、厚木ワイズメンズクラブに、共に共催事業の働きを担っていただくことになった。このプログラムに、より多くの方々のご理解とご協力を得ることができ、大変うれしく思う」と述べられた。次に横浜YMCAカレッジグループの高大学院長が「横浜、川崎、厚木の3つの日本語学科で、24の国と地域の273名の留学生が学んでいる。日本語を学び、言葉というコミュニケーションのツールを充分活用しながら、留学生の皆さんが、日本と世界につながる国や地域のかけ橋となるような働きを担っていただくことを願う」と挨拶された。

続いて、審査員5名の紹介。当クラブの金子功ワイズ、厚木ワイズメンズクラブの小松仲史会長、神奈川県青年国際交流機構事務局長の梅本真理子さん、YCJサポーターの山本紀美子さん、恵泉女学園大学人文学部教授の秋元美晴さんの5名である。参加者は、横浜YMCA学院専門学校(横浜校)、YMCA健康福祉専門学校(厚木校)、YMCA国際ビジネス専門学校(川崎校)の各日本語学科の10名に加えて、招待参加としてYMCA東京日本語学校の留学生1名の、合計11名であった。

いよいよ一人5分の持ち時間でスピーチの開始。スピーカーの国・地域はベトナム4名、韓国2名、台湾、中国、フィリピン、ネパール、マダガスカルの各1名だった。審査の結果、最優秀賞は介護の仕事の話「人生の選択」と題して語った、フィリピンからの留学生、バロンガ メレットさんとなった。優秀賞は「障害がある人と暮らす」のネパールのグルン カマラさんだった。そして株式会社共立メンテナンス賞は、「時間のたいせつさ」のマダガスカルのラソアナタヒナ ミラナ ジョシアさん、神奈川県青年国際交流機構賞には「はいざらもらえますか」の台湾のクオ ホエミンさんが受賞された。



留学生の皆さんと審査員

その後、横浜中央YMCAに会場を移動して、古賀ワイズの司会で交流会が開かれた。最優秀賞以下全員に当クラブの古田会長から賞状と賞金・参加賞が渡された。全体講評において、審査員長の恵泉女学園大学の秋元教授が「皆様、それぞれのスピーチが素晴らしく、甲乙つけがたく、審査員全員を困らせたほどレベルの高いスピーチであったので、

『賞を受賞者された方だけでなく、スピーチをされた方みんなが受賞者だ』と考えてよいかと思う。日本語スピーチコンテストに出席するのは、私にとって今回で3回目だが、年々レベルの向上がみられるのには驚き、毎年本当に楽しみにしてこの場に来ている。」と述べられた。

また、会場で、出席者からの声を聞いた。「スピーチを通して、留学生の経験、将来の夢、母国と日本の違いから気づいたことなどを知ることができ、面白かった」や「日本語を学び使いながら、自分の考えを表現することの緊張感と喜びが、スピーチされた全員の方から伝わってきた」等々……。多くの方々から賞賛の声があがっていた。日本語学科の平岡先生をはじめとするスタッフの方々のお働きにより、このようにスピーチコンテストが大盛況となり、感動のうちに終了した。そして横浜つばきクラブからは今回も岡田ワイズ夫妻が参加して下さった。皆様の数々のご協力に対して、心から感謝申し上げます。

横浜クラブの参加者は、青木、伊藤メン・メネ、大高、金子、古賀、古田 7名。



横浜クラブからの参加者

「今月の一言」—LGBTQ

大江 浩



8月号ブリテンの「今月の一言」の続きです。「AIDS文化フォーラム in 横浜といのちを繋ぐリレー」で触れた“LGBT”は今、“LGBTQ”と言われるようになってきたことから始めます。まずは用語解説から。

Lesbian (レズビアン) : 女性が恋愛対象の女性

Gay (ゲイ) : 男性が恋愛対象の男性

Bisexual (バイセクシャル) : 男性と女性の両方が恋愛対象の人

Transgender (トランスジェンダー) : 体と心の性別が一致しない人

Questioning (クエスチョニング) : 自身の性自認と性的指向が定まっていない人

タブー視される「性」の問題は「生」の問題であり、生き方の問題です。AIDS文化フォーラム直前に報じられた自民党の杉田水脈衆議院議員の「同性カップルは生産性がない」との発言は、LGBTQのこのみならず全てに通じます。

「少数者=異質な者/奇異な者」=差別偏見・攻撃の対象、という意識の根っこにある排除や敵意の地続きに「共に生きられない社会」があります。ナチス時代の同性愛者への迫害や虐殺、日本のハンセン患者の隔離政策、新しい記憶では津久井やまゆり園事件、更には言えば在日外国人へのヘイトクライムにも通じる現実です。弱く小さくされた人=無用な人・有害な人と決めつけ、「否定し消してよい存在」であるとの意識の根底に「優生思想」を見る思いです。

「ドイツで現在LGBTが受け入れられている背景には

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

『ナチス時代への反省』という点も大きいです。ナチス政権のもと、多くの同性愛者が迫害を受け虐殺されました。杉田氏の『生産性のない人に税金を投入するのがいいのかどうか』という考え方はナチスの優生思想を彷彿させるものです。杉田氏が『税金の投入』といわばお金の話をしている点については、筆者はナチス時代のポスターを思い浮かべてしまいました。ポスターには『遺伝性疾患者は生涯で6万帝国マルクもお金がかかる。国民よ、それは貴方のお金でもある。月刊誌《新しい国民》をお読みください』と記載されており、『お金がかかる』ということを出して、国民を煽っています。ナチス時代には『これだけお金がかかるのだから、優生思想の基準を満たさない人の存在意義は無い』という考え方がまかり通っていたため、戦後70年以上経ったドイツでは今でも、『一步、選択を間違えると、人間は《不寛容》に慣れてしまい、ナチス時代の過ちが繰り返されるかもしれない』と考えられています。当然ながら『生産性が無いので予算をカット』という思考は現在のドイツにおいては認められていない『考え方』です。」(朝日新聞 Globe 2018年8月4日号)

「排除」ではなく「多様性」を受け入れて共に生きることの重みを噛みしめています。「生産性」では語りきれない「いのち」の問題が横たわっています。「人権」=神様から与えられた、人として生きる権利について、“LGBTQ”という言葉が私たちに問いかけています。

第二例会報告

古田 和彦

日時：9月27日(木) 17:00~19:00

場所：中央YMCA 606号室

出席者：青木、伊藤、金子、古賀、古田

協議・確認・検討事項

1) 行事予定

・10月~12月の行事予定確認

2) 幼児サッカー大会(10/13)への対応

・参加者、役割、支援金の確認

3) 第21回横浜YMCAインターナショナル・チャリティーラン

・10月20日(土) 8:00 集合 於みなとみらい21地区

・参加者、役割(受付)、支援チーム(学童)の確認

・天候判断の仕方の確認

4) 11/23 ウェルカムフェスタ

・事前準備は11/22(木) 13:00から行う

・事前準備・当日とも広く協力を呼びかける

5) 熊本スピリットクラブとのDBCについて

6) 卓話予定 10月：「BAPY基金について」鴨下純久氏

7) 12月第一例会(クリスマス・忘年会)については次月に検討

8) 11月ブリテン編集計画

9) ロースターに対する当クラブの検討を次月に行う

10) 諸報告

・次年度スピーチコンテスト日程 2019年9月2日(月)

・9/5 日本区EMC委員会報告

・9/15 次年度部運営検討委員会報告他



担当主事 青木 一弘

■ 第21回横浜YMCAインターナショナル・チャリティーランのご案内

10月20日(土)に開催予定のチャリティーランに、横浜ワイズメンズクラブから支援を受け学童クラブから1チームのエントリーを予定しています。また、当日は、会場の受付ボランティアに、横浜ワイズメンズクラブのご協力を頂く予定です。心より感謝いたします。

■ 横浜中央YMCA「ウェルカムフェスタ」のご案内

11月23日(祝・金)に「ウェルカムフェスタ」を行います。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

開催日時：11月23日(祝・金) 10:30~14:30

内容：バザーや模擬店などYMCA国際・地域協力募金のための寄付イベントです。

10月例会プログラム

日時：10月11日(木) 18:30~20:30

場所：横浜YMCA 501号室

司会：金子ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶・・・・・・・・・・古田会長
2. ワイズソング・ワイズの信条・・・・・・全員
3. 今月の聖句・・・・・・・・・・金子ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介・・・・・・・・・・古田会長
5. 食前感謝・・・・・・・・・・金子ワイズ
6. 食事
7. 卓話「BAPY基金について」 鴨下純久氏
三浦YMCAグローバル・エコ・ビレッジ所長
8. ビジネス・報告・・・・・・・・・・古田会長
9. Happy Birthday 遠藤 喜七(7)
10. 閉会点鐘・・・・・・・・・・古田会長

例会報告：古賀ワイズ

11月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
8	木	18:30	第一例会	中央YMCA
17	土		第2回部評議会	中央YMCA
22	木	13:00	ウェルカムフェスタ準備	中央YMCA
22	木	17:00	第二例会	中央YMCA
23	金		ウェルカムフェスタ	中央YMCA

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木一弘にご連絡下さい。
メール aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org
電話 045-641-5785

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★